

農繁期 レポート

令和7年 4-5月号

栄ファーム

オーナー
産地
水田面積
保証量
形態品種

栄運輸工業株式会社
鳥取県日野郡日南町
18.4アール
玄米828kg
特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二さん

本年もオーナーになってくださり、誠にありがとうございます。
今年は春の雪解けが早く、4月の耕耘作業を早くから始めることができました。
田植えは5月1日から開始し、6月6日に最後の田植えが終わりました。
田植えをしたり代かきをしたりと、春は慌ただしく過ぎていきますが、田んぼ周りの草も伸びてきましたので、一息つく間もなく草刈りを始めていきます。今年の収穫も楽しみにお待ちしております。

4月～5月の作業内容

1. 育苗

幼少期を集約的に管理して、均一に生育させることが目的です。育苗の初期である発芽から苗立ちの期間の管理が、その後の生育を大きく左右するため、最も重要な場面であるといえます。



育苗ハウスの作業の様子

2. 荒起こし

トラクターで硬くなった土を砕き、空気や水を入れて柔らかくする作業です。土をほぐすことで根張りがよくなり、微生物の働きも活発になります。また、次の代かき作業がしやすくなり、田植えの準備がスムーズに進みます



トラクターでの荒おこし

3. 代かき

田起こし後の田んぼに水を張り、土を細かく砕いて均す作業です。苗がムラなく育ち、植え付けもしやすくなります。水漏れ防止や肥料・有機物の混和、雑草の抑制にも効果があります。昔は牛や馬に馬鍬を引かせており、古民家に牛舎跡が残ることもあります。



トラクターでの代かき

4. 田植え

代掻き作業から数日後に行う作業です。昔は一族総出で行っていましたが、田植え機が発明され作業負担が軽減されました。田植え機にはガイドがあり、まっすぐきれいに植えることができます。稲の良好な生育をイメージしながら作業します。



田植え機を使った田植え